

# 図書館だより 第37号

## 鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

### 目次 Contents

- 「文学研究は辛抱？」 森 孝晴 ..... 2P
- 「利用しないなんてもったいない」 増田 和高 ..... 3P
- マクマレイゼミお勧めの本 ..... 4～5P
- 夏目漱石没後100年・生誕150年特別企画展  
特別寄稿 村瀬 士朗 ..... 6P
- 図書館サポーター活動報告 ..... 7P
- Library Report ..... 8P



夏目漱石自筆原稿「文芸委員は何をするか」  
(鹿児島国際大学附属図書館所蔵)



## 文学研究は辛抱？

国際文化学部教授 森 孝晴

ジャック・ロンドンというアメリカの作家を研究して約40年になります。まだまだ勉強が足りないのですが、思い返すと様々な研究の成果が出るまでにそれぞれかなり時間がかかっているな、結構辛抱したよなと感じています。私は特にロンドンと日本人の関係を研究し続けていますが、関係する人物たちを知る人々との人間関係がとても大事でした。

たとえば、本丸のロンドン研究では、運良く学園より在外研究を許された滞米中の1年間私は毎日のように二つの場所に通いました。一つは客員として迎えてくれた大学の図書館で、もうひとつは近隣にあったジャック・ロンドン・リサーチセンターでした。大学図書館にはロンドン関係の特別書庫があり、それ以外の棚にもロンドン資料がたくさんありましたから、それを調べるには長い時間がかかりましたが、とても楽しい時間でもありました。また、この大学図書館は入館するにもチェックがありますが、一方では飲食が自由でしたので、リラックスして充実した時間を過ごさせてもらいました。

リサーチセンターは少し田舎の町にありましたので通うのに時間がかかるのですが、この「通学」がそもそも楽しいものでした。センターに向かうハイウェイは美しいブドウ畑の中を貫いていきますので、私は毎日天国にいるような幸福感を感じながら通いました。さらにその行き先も私にとってはもう一つの天国でした。リサーチセンターには珍しい資料が山ほど所蔵されていたからです。しかし、こちらでもリサーチは始めから順調とはいきませんでした。センターは私のことをほとんど知りませんでしたから、初めは少し警戒したのでしょう。初版本など貴重な資料も多かったのが当然かもしれません。

センター長はキングマンさんという方でした。威厳のある方ですが、どの資料でも自由に見ていいよと言ってくれました。しかし最初は何となく硬くなってしまい、周りの視線が気になりました。それでもわたしは毎日むさぼるように資料を調べました。するとやがて周りの態度に変化が

生じてきました。その変化はある種ドラマチックなもので感動的でさえありました。

私が熱心だと認めてくれたのか、センターのコピーマシンは自由に使っていいよと言われ、私は本当に何百枚というコピーを無料でさせてもらいました。そのうち優しくあいさつを交わすようになり、キングマン氏の奥様が、そっとコーヒーとお菓子を出してくれるようにもなりました。仕舞いには、私が遅くまでセンターにいるので鍵を預けられるまでになったのです。ここでのリサーチで得たものは、数えきれない貴重な資料ではなかったのです。

この留学よりもさらに10年ほど前のことですが、私はハージャーさんという女性と知り合いました。彼女はカリフォルニア州にある鹿児島友好協会の会長でしたが、その後長年私と親しくしてくださいました。そして、知り合って10年ほど経ったある時にハージャーさんは私にジャック・ロンドンに関する非常に貴重な資料を送ってくれました。これはかなり決定的なもので、私はとても助かったのです。友好協会の仕事をしている者同士の友情が生んだ特ダネでした。

もうひとつ私はある方から特ダネをもらいました。それは、「親子20分間読書運動」で知られる作家椋鳩十の教え子の畠中さんという方からでした。私は椋さんがロンドンの影響を受けていることから椋さんにも強い関心を持って彼の顕彰活動を始めたのですが、そのことを喜んでくださりまた私を信頼してくださって、初めてお会いしてから10年ほど経って、椋さんがいかにロンドンに関心を持っていたかを証明するある資料を見つけてくださったのです。その資料は関係者だけに配られた限定的なもので、私はそれを読んで大声をあげそうになったほど感激しました。

こういうことがいくつもありましたので、人との出会いがいかに大切か私は痛いほどわかるのです。私が10年以上かかって書いた著書にもこうした多くの方々の友情や信頼がいっぱい詰まっているのです。



## 利用しないなんてもったいない

福祉社会学部講師 増田 和高

様々な“モノ”の電子化が進み、本や音楽も電子媒体化することで便利に持ち運べるようになりました。二十歳の頃、ノルウェーを3か月かけて旅しましたが、限られたバックパックの容量と相談しながら、地図とガイドブックに加えてどの本を持っていくか、大いに悩んだ記憶があります。今はPDF化したデータとタブレット端末だけで何百冊分もの本を旅に持っていくことができるようになり、研究をするうえでも、いつでも、どこでも資料を手にするので大変重宝しています。電子化が進んだ昨今において、わざわざ図書館に足を運び、本を手にする行為は一見スマートではない気もしますが、それでも私は時間があれば図書館に足を運びます。やはり図書館にはそれだけの魅力があるのです。以下には私なりの図書館の魅力を紹介して行こうと思います。

### 本を選ぶ～一冊との出会い～

レポートのための資料探しもいいですが、図書館に行くときには目的を持たず「なんとなく」行くことをおすすめします。そして「本を選ぶ」という行為を楽しんで欲しいと思います。図書館の魅力はまずその蔵書の多さです。書店と比べて新旧、ジャンルを問わずたくさんの本が並んでいると、自分の知らなかった情報や知識に出会える機会も増えます。そうした中で、気になった本を手に取り、パラパラと頁をめくる。様々な本を「つまみ食い」しながら読みたくなる本を探す行為は、まだ見ぬ自分の一面を見つける作業のようであり、「おもしろい」と思える一冊に出会える体験はやはり図書館の醍醐味だと思います。

### 空間を楽しむ

図書館のもう1つの魅力は、あの不思議な空間です。公共のスペースでありながら、プライベートな空

間を図書館は許容してくれている気がします。リラックスしたり、読書や思想に耽ったり、時々眠ったり。極めてプライベートな時間を図書館では過ごすことができます。一言で言うと居心地がいいんですね。図書館は「勉強する場所」という位置づけが強調されがちですが、適度に静かな空間でリラックスしながら様々なことに想いを馳せることができることも図書館の魅力の一つだと思います。気分を変えたいときや、バスを待っている空き時間など、図書館に立ち寄って一息つくという使い方を是非おすすめします。「読書する」という点においても、タブレットさえあればどこでも本や資料に目を通すことができますが、ゆっくりとした空気に浸りながらじっくり考えることができるという点において図書館はまさにうってつけの場所です。

まだまだ書き足りないことだらけですが、図書館という不思議な空間には、本だけではなく、魅力がたくさん詰まっています。図書館のルールを守りながら、様々な使い方を皆さん自身で見つけてみてはいかがでしょうか。



## マクマレイゼミお勧めの本

私たちマクマレイゼミでは英語で俳句を書いたり英語でのディベート大会を開催したりなど様々な活動を通して英語を活用しています。今回は『赤毛のアン』を英語のレベル別で読み、そのレビューをお互いに共有することにしました。『赤毛のアン』を知っている人も英語ではどのように表現されているのか違いを発見するのも楽しいかもしれません。また、英語を勉強するうえでお勧めの本も紹介しているのでぜひ読んでみてください。



### 自由語り：第二十七回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞作品集

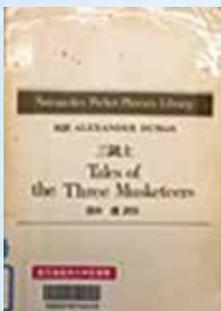
(出版者：伊藤園 出版年：2016.8)

私は英語俳句一次審査員として17,825句の英語佳作俳句を読みました。審査は自由な表現を持つ素晴らしい作品が選り出せるようになっております。俳句作品の審査を通じて、高校生が考えていることや、世界で今何が起きているかということを知ることが出来ました。

from a small window small small world my first flight

これは第27回の英語俳句の部大賞を受賞した高校生の俳句です。カナダへ行った時の初めてのフライトでのこと。飛行機が雲より高く飛び、小さな窓から海や大陸が見えた時、世界は広くて大きいという概念が消え、ちっぽけで身近なものに感じたということ詠んだ句です。

国際文化学部教授 デイビッド・マクマレイ

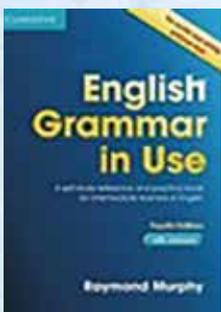


### 三銃士 Tales of the Three Musketeers <南雲堂 学生文庫 71>

Alexandre Dumas著 清水護訳注 (出版者：南雲堂 出版年：1960.3)

この物語の中にはバトルアクションはもちろんですが、悲劇の結末など読者を楽しませる内容が多く含まれています。また、特にこの小説のキーとなる人物がさらわれてからの戦いがとても熱く、最後には衝撃の結末があります。この小説の英語は古い表現も使われていますが、左のページに英文、右のページには日本語訳となっているので、かなり読みやすくなっています。ぜひ読んでもらいたい私のおすすめ小説です。

国際文化学部国際文化学科4年 福山 喬之



### English Grammar in Use

Raymond Murphy著 (出版者：Cambridge University Press 出版年：2012.2)

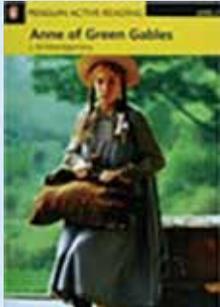
I always doとI'm always doingの意味の違いは何だろうか。英語を英語で学ぶ中級学習者向けの英語文法書で、話す・聞く・書く・読むのすべての力が1冊で補えます。シンプルですが意味を的確に理解し、それを使えるレベルまで学習できる洗練された本です。ニュアンスの違いやネイティブの感覚を身近に触れながら学習できる、今までに出会った中で一番の英語文法書です。

国際文化研究科修士課程1年 マクマレイゼミTA 川村 祐太

## マクマレイゼミお勧めの本

レベル別

〈赤毛のアン-Anne of Green Gables-〉レビュー



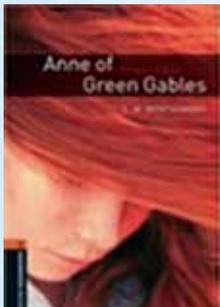
難易度★

## Anne of Green Gables &lt;Penguin Active Reading&gt;

L. M. Montgomery著 (出版者: Pearson Japan 出版年: 2011.7)

初めは、全て英文の物語を読み理解することができるのかとても不安でしたが、分からない単語は、辞書で調べながら物語を把握することができて驚きました。イラストを見つつ読んでいくうちに、「ここはこういうことを言われたからアンは怒っているな」というように理解することができました。語学力や知識がまだまだ十分ではない私でも全文英文の内容を大体でも理解出来るのだと、少し自信ができました。以前なら全文英文のものをチラッと見ただけですぐに諦めていたのですが、いざ読んでみると意外に読め内容も理解でき、昔より確実に成長していることが分かりとても嬉しいです。長文の英文を前にしてすぐ諦めるのではなく、まずは読んでみるのが大事だなと思いました。

国際文化学部国際文化学科2年 岡元 葉奈



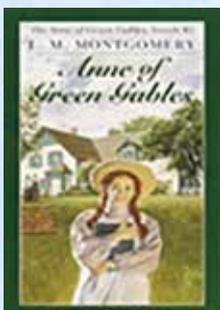
難易度★★

## Anne of Green Gables &lt;Oxford Bookworms Library Stage2 (700 Headwords)&gt;

L. M. Montgomery著 (出版者: Oxford University Press 出版年: 2007.11)

内容は知っていましたが、英語で読んで内容がしっかり伝わってきて、本の世界に引き込まれました。この本を読み最初に感じたことは、私たちがこれまで学習してきた英単語や表現が多く使用されており、非常に読みやすかったということです。読む前は難しい英語がたくさん出てくるのではないかとかなり不安でしたが、スムーズに読むことができました。また、登場人物の台詞が日常会話を覚えるのに便利だと思ったので、色々な英米文学を読み、同じ本を繰り返し読むなどして使えるような表現を探して勉強していきたいです。

国際文化学部国際文化学科2年 神前 将太



難易度★★★

## Anne of Green Gables &lt;The Anne of Green Gables Novels #1&gt;

L. M. Montgomery著 (出版者: Starfire 出版年: 1982.4)

これは彼女の人生を描いたカナダの有名な小説です。アンは非常に可哀想な子でした。マシューとマリラに出会わなかったらどんなに苦しい人生だったのか誰も想像できないほどです。彼らとアンは血縁関係がないにもかかわらず、心からの愛がありました。知らず知らずのうちにアンは幼い女の子から成長し、美しくて礼儀正しく知性のある立派な女性に育ちました。マリラも心優しくて親しみやすいおばさんになり、女性と全く話せないマシューとも心を開くことができました。私は原作で読みましたが、単語も難しく特に副詞と形容詞は見たことのないものが多くて難しかったです。

国際文化学部国際文化学科4年 董 妍妍

## 夏目漱石没後100年・生誕150年特別企画展 特別寄稿

### 100年目に読む夏目漱石 「漱石力」の効用、文学の力

国際文化学部教授 村瀬 士朗

2016年は夏目漱石が亡くなってから100年目のメモリアルイヤーであった。漱石は49歳で亡くなっているため、2017年は生誕150年になり、2年続けて記念の年が続くことになって、漱石を取り上げたテレビドラマが放送されたり、最後に住んだ家の後に記念館が建てられたり、いろいろな関連企画が催されている。100年間読み続けられ、今もなお新たな読者を生み続けている、漱石文学の魅力とはどこにあるのだろうか。

よく知られていることであるが、「漱石」という筆名（ペンネーム）は中国のある故事に由来している。晋の孫楚という人が、俗世間を避けて人里を離れた山奥で自然のままの生活を送りたいというので、「石を枕にして、川の流れて口を漱ぐ生活をするのだ」と言おうとして、間違っただけで反対に「石で口を漱ぎ、川の流れてを枕にするのだ」と言ってしまう笑われたところ、「石で口を漱ぐのは歯を磨くためだ、川の流れてを枕にするのは耳を洗うためだ、間違いじゃない!」と言い張ったというお話である。「漱石」とはつまり自分の失敗を認めずに屁理屈を言うこと、負け惜しみが強い、という意味なのだが、漱石の文学はまさにこの負け惜しみの文学である。

漱石の代表作に『坊っちゃん』という作品がある。一般的には正義感あふれる主人公の活躍を描いた愉快で爽やかな青春文学と読まれている作品だが、語られている主人公の半生それ自体は、実は失敗と挫折の連続である。子供時代は叱られてばかり、両親から見放され、兄からは絶縁され、何とか獲得した教員の仕事も1カ月余りで辞職してしまう。それなのにこの作品を読むと、私たちはきっと爽快な気分になることができる。それを可能にしているのが文学の持つ負け惜しみの力、すなわち「漱石力」なのだ。坊っちゃんは小学校時代、友達から唆されて校舎の二階から飛び降りて腰を抜かしたことがあった。惨めな失敗の体験だ

が、この時迎えに来た父親から「二階ぐらいいから飛び降りて腰を抜かす奴があるかと」叱られた坊っちゃんは、すかさず「この次は抜かさずに飛んで見せます」と答えてみせる。この江戸っ子の減らす口こそが惨めな失敗を笑いに変えるのだ。『坊っちゃん』の魅力はこの減らす口、負け惜しみの言葉の力によって作り出されている。負け惜しみとは失敗や挫折に別な可能性を発見しようとする努力なのである。それは語ることによって過去の体験を生き直す、文学という言語活動の可能性を示している。

メモリアルイヤーをきっかけに改めて漱石の作品に触れて、ぜひ文学の持つこの「漱石力」の効用を感じてもらいたいと思っている。



# 図書館サポーター活動報告《2016年度》

- 4月 ☆ 新入生勧誘  
☆ テーマ展示  
『一人暮らし』『サポーターおすすめ恋愛物』
- 5月 ☆ テーマ展示  
『ゴールデンウィーク』『こどもの日』『母の日』  
☆ 新入生歓迎会
- 6月 ☆ 選書ツアー  
☆ テーマ展示  
『雨』『父の日』『サポーターの好きな作家』
- 7月 ☆ テーマ展示  
『夏休み』『お祭り』『キャンプ』『合宿』『旅行』『七夕』『星』  
☆ 機関紙「晴読雨読(夏号)」発行  
☆ 第1回オープンキャンパス  
サポーター企画イベント  
・「ビブリオバトル」「クイズラリー」「地下探検」実施  
・サポーター紹介リーフレット、「晴読雨読(夏号)」配布
- 8月 ☆ 第2回オープンキャンパス  
サポーター企画イベント  
・「クイズラリー」「地下探検」実施  
・サポーター紹介リーフレット、「晴読雨読(夏号)」配布



- 10月 ☆ 平成28年度鹿児島県大学図書館学生協働ワークショップ参加  
☆ 第3回オープンキャンパス  
サポーター企画イベント  
・「クイズラリー」実施  
・サポーター紹介リーフレット配布
- 11月 ☆ 選書ツアー  
☆ テーマ展示  
『紅葉』『秋の味覚』
- 12月 ☆ テーマ展示  
『クリスマス』



平成28年10月1日鹿児島大学で開催された鹿児島県大学図書館学生協働ワークショップに、鹿児島国際大学附属図書館サポーターから4人が出席しました。

ワークショップでは、基調講演、各大学の図書館サポーターによる活動内容などの報告、今回出席した各大学のサポーターや県内外の大学図書館関係者とグループを作り、「学生サポーターの活動によって大学図書館の利用を活性化するには」というテーマについて自由に意見を話し合うワールドカフェが行われました。

各大学サポーター報告では、鹿児島国際大学附属図書館サポーター代表として、新町さん（国際文化学部1年）と末吉さん（国際文化学部1年）が報告をしました。二人の報告はとても素晴らしいものでした。

これからも、サポーター一同図書館のために頑張っていきたいと思います。



## Library Report

### オーディオルームで企画展示を行いました

8号館2階にあるオーディオルームでは、企画展示「クリスマス、そして年末年始の音楽」を行いました。

音楽学科の学生が毎年企画しているクリスマスコンサートで使えるものや、年末年始によく耳にする楽譜、CD、DVDをすぐ手に取れるよう展示しました。

また、年始によく耳にする『春の海』や『六段』、『千鳥の曲』という箏曲をピアノアレンジしている楽譜も展示しました。



企画展示以外にも、コンサート情報の掲示や、作曲家の生誕記念等に合わせ楽譜や書籍、CD等を展示するなど、より音楽に関する知識や技術等の幅を広げてもらうための色々な情報を提供するようにしています。

オーディオルームには、初級者から上級者まで幅広いレベルと、クラシック以外にも、ポップスやジャズ等の様々なジャンルの楽譜や、視聴覚資料、音楽理論書等を所蔵しています。

九州でトップクラスの音楽資料を所蔵しているオーディオルームに、足をはこんでみませんか。

### ♪ オーディオルーム開室時間 ♪

【通常期・試験期】

月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～12:00

【長期休業期間】

月～金曜日 9:00～16:30 土曜日 9:00～12:00

※ 図書館の休館日はオーディオルームも閉室します

(休館日<http://www.iuk.ac.jp/tosyokan/riyo/riyo-kyukanbi.html>)

※ 開室・閉室時刻の変更や臨時的休室がある場合は別途掲示します



### 編集後記

今回の図書館だよりでは、オーディオルームの企画展示について紹介しました。図書館、図書館サポーターも定期的に企画展示やミニ展示を行っています。季節、学生生活、学部・学科に因んだもの、話題の作家など、色々なテーマで展示を行っていますので、図書館に足を運んだ時、図書館での読書や勉強の息抜きに、展示コーナーものぞいてみてはいかがでしょうか。何か新しい発見があるかもしれません。

最後に、図書館だより第37号の発行に際し、お忙しい中、快く執筆をお引き受けくださった皆様にお礼申し上げます。

図書館だより－鹿児島国際大学附属図書館報－ 第37号 2017年2月15日発行

鹿児島国際大学附属図書館 〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1

TEL:099-263-0732 FAX:099-261-1198 E-mail: tosyokan@ofc.iuk.ac.jp

(URL) <http://www.iuk.ac.jp/tosyokan/index.php> (携帯URL) <http://lbweb.iuk.ac.jp/nbp/>